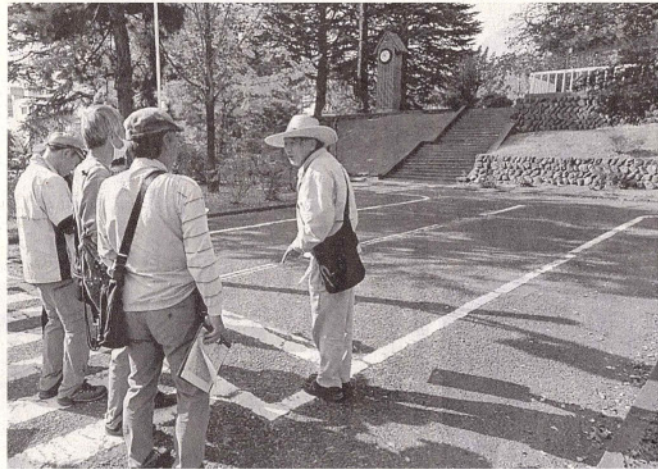


善光寺地震で生じた高さ約3mの段差(奥の段差)を説明する田辺智隆さん(右端)＝長野市長野旭町のひまわり公園で



長野県庁なぜそこに？

写真散歩

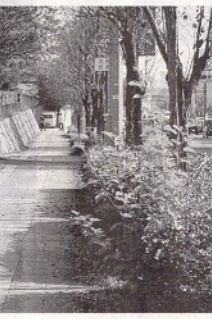


好奇心満たす地形ツアー

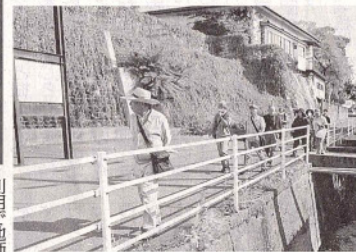
「なぜそこに長野県庁を置いたか？」を探索するツアーが5日、長野市の現地であり、市民11人が参加した。カキは自然災害だった。長野県は1871年に成立し、74年現在は信州大がある場所に庁舎が完成した。火災で



信州大に残る1895年建築の旧長野県庁書籍庫。レンガ造りのため、県庁舎が1908年に焼失した際、焼け残った＝長野市西長野で



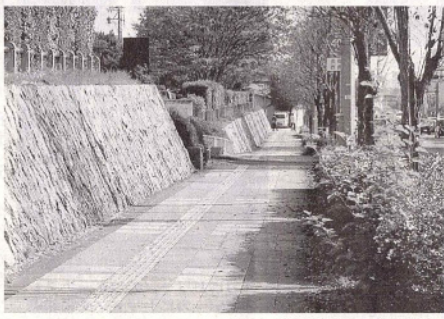
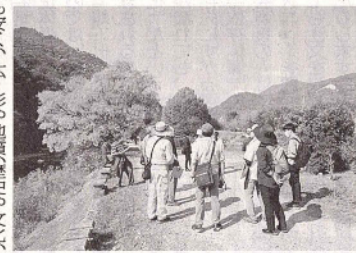
全焼後の1913年、約700坪の現在地に移った。ツアーはこの一帯で実施。市内の戸隠地質化石博物館の研究員、田辺智隆さん(62)が案内した。田辺さんの説明によると、この付近には活発な活断層「長野盆地西縁断層」が南北に走っている。「ひまわり公園」にある高さ約3mの段差は、1847年の「善光寺地震」(マグニチュード7.4)で自然災害だった。火災で



●瀬花川の河岸段丘の崖(左側)。かつて瀬花川があったことを示す。●長野市西長野で●以前は左右両側の山頂の高さに地面があり、左側を手に流れ、瀬花川の浸食で現在の地形になった。●長野市街地はその扇状地だ。●長野市南長野で



「なぜそこに長野県庁を置いたか？」を探索するツアーが5日、長野市の現地であり、市民11人が参加した。カキは自然災害だった。長野県は1871年に成立し、74年現在は信州大がある場所に庁舎が完成した。火災で



●断層で生じた段差。奥の石垣が低い。左側は信州大―長野市西長野で●長野県庁前で記念写真を撮るツアー参加者―長野市南長野で

「なぜそこに長野県庁を置いたか？」を探索するツアーが5日、長野市の現地であり、市民11人が参加した。カキは自然災害だった。長野県は1871年に成立し、74年現在は信州大がある場所に庁舎が完成した。火災で